

蒲生干潟の植物③⑤

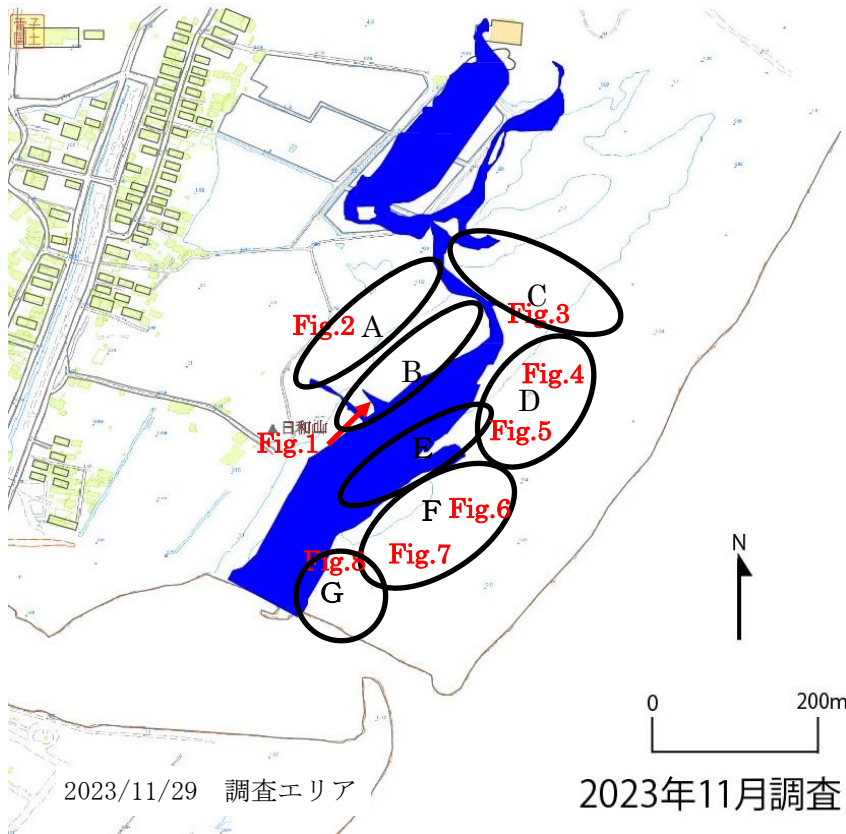


Fig.1 エリアBを南西側から撮影



Fig.2 エリアAで撮影



Fig.3 エリアCで撮影



Fig.4 エリアDで撮影

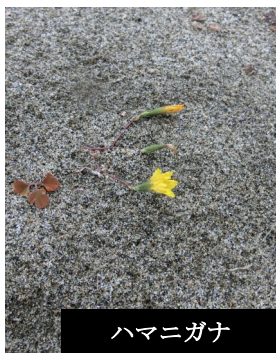


Fig.5 エリアDで撮影



Fig.6 エリアFで撮影



Fig.7 エリアFで撮影



Fig.8 エリアGで撮影

調査日時：2023年11月29日（水）12:45～14:00，天気：雨

小雨が降る中での調査であった。定点観測では、ハマツナがすっかり枯れ、地面が露出している部分が多くなった (Fig.1)。エリアAのヨシは、すっかり茶色くなり、穂の毛もあまり目立たなくなった (Fig.2)。しかし、エリアCのヨシは、根元の方がまだ緑色をしており、穂にも白い毛が目立っていた。エリアD、Fのヨシも同様であった (Fig.3)。潟湖の西側と東側でヨシの生育時期にずれがあることがわかった。エリアDでは、ケカモノハシの群落はすっかり茶色になっていた (Fig.4)。わずかにハマニガナの花が確認できた。少し閉じており、周辺ではほとんど見られないため、開花時期も終わりを迎えていると思われる (Fig.5)。エリアFのウンランは、花が終わり、黒い種子ができているのが確認できた。花の時期が非常に短かったが、ちゃんと種子ができている (Fig.6)。エリアFでは、コマツヨイグサの花が確認できた。コマツヨイグサの花は、周辺にいくつか見られた (Fig.7)。エリアGの汀線沿いでは、オカヒジキがすっかり枯れていたが、オカヒジキ群落の中に1個体だけ赤くなっていた個体があった (Fig.8)。種を同定できなかったため、来年の温かい時期に確認したい。

(宮崎佳彦)